

## <<< JARL 信越地方本部 コンテスト委員会より >>>

今年もJA0-OSOならびにVHFコンテストにご参加いただき、ありがとうございました。委員会一同感謝申し上げます。皆様から寄せられているご意見について、コンテスト委員会の見解をお伝えいたします。(昨年度の委員会からのコメントもぜひ再読お願いいたします。)

### ・コンテストの開催時間について

両コンテストとも土曜日の21時から翌曜日の12時までの開催となっております。最近の参加局数の減少により、深夜の時間帯に休憩時間を入れる等で開催時間短縮のご提案をいただいております。しかし、上位入賞されている局は深夜1～2時まで、また朝は4時、5時台からの交信記録があり、数時間の休憩時間を入れてもあまり意味が無いと判断いたしました。当分の間この時間帯での開催を継続することといたします。休憩は皆様のご判断により、無理のないコンテスト参加をお願いいたします。

### ・VHFコンテストと他のコンテストとの開催時間重複について

信越のVHFコンテストが関西VHFと重なっているのは承知しております。以前はVHFで関西まで電波が飛ぶようなことも滅多になかったのですが、最近コンテスト中の3エリアとの交信記録もあるようです。

しかしHF帯をのぞいてみると、最近時間帯が重なっているローカルコンテストが目白押しです。それぞれ「\*\*コンテスト」と明言して参加されており、特に大きな混乱は起きていないように思います。関西方面との交信ができた局は、ぜひ信越のVHFコンテストのナンバーを送っていただき、お互いに盛り上げるようにしていただけたらと思います。

### ・電子ログ提出時の署名捺印について

本件について規約で明確化しておらず、皆様にご迷惑をおかけいたしました。誠に申し訳ありません。

OSOとVHFでは電子ログのスタイルが異なります。OSOはその規約の特性上、現在JARLで発行しているA4サイズの業務日誌(ログブック)の書式での提出をお願いしており、電子ログの場合でも印刷すると同じ書式になるものについてのみ受け付けております。VHFでは比較的他のコンテストと共通した規約であり、JARL主催のコンテストで使用されている「JARL形式」と呼ばれる電子ログフォーマットでの提出をお願いしております。(紙の提出書類と同書式になるようなファイルではありません。)

サマリーシートの署名捺印ですが、電子ログでの受付を開始して以来「不要」という考えで審査を行ってまいりましたが、協議の結果、OSOについてはサマリーシートの下端の署名欄に名前が入っていること、という条件を規約で明記することとなりました。VHFは「JARL形式」の電子ログフォーマット

トであれば元々署名不要であり（誓約文は必要です）、印刷用ファイルで送付された方についてはOSOと同様とします。（ただし極力「JARL形式」でお送りください。）

次年度のコンテスト規約に明記いたしますので、ご確認ください。

#### ・コンテストナンバーの001形式について

世界規模のコンテストでも使用されているコンテストナンバーの「001形式」について、両コンテストでは不要ではないかとの声が寄せられています。OSOはその規約の特性上、書類上で1対1の交信の厳密な確認が必要であり、交信の存在を特定するためにこのナンバーが重要ですが、VHFではコンストナンバーが長くなるため不要ではないか、との結論になりました。（同様に、市町村区マルチも、ナンバーの関係から今回は見送りの方向です。）

次年度からはVHFコンテストについて001形式のナンバーを省くことで検討しております。

#### ・OSOの移動局について

OSOコンテストは非常通信を想定しており、商用電源以外を使用した場合には得点を追加する、ハンディー機部門を設定する等のご意見をいただいております。協議の結果、現在でもコンテスト中での運用地の変更は可能ですし、すでに移動局は固定局よりもアドバンテージがあります。開催時期から移動運用をしたくてもできない局も多く、移動局に対してこれ以上のメリットを与える必要はないのではないか、との結論に達しました。ご理解のほどお願いいたします。

#### ・電信モードでの交信について

両コンテストとも電信での交信も当然認められておりますが、実際の交信数は非常に少ないです。しかし根強いCWファンもおり、電信のみで参加されている局も毎年必ずおられます。

次年度よりVHFコンテストに限り、同一バンドでの電信および電話での交信を、それぞれ1点とする規約を考えております。3アマ免許取得が容易になった現在、免許はあるが電信での交信実績が無いという局もおられると思います。電信での交信は、コンテストで慣れるのが一番ではないでしょうか。皆さんの電信へのチャレンジの一助になれば幸いです。

OSOでは電信での交信は当然和文となります。（規約では、電文は和文通話表で送受できるものが基準となっております。）今回は規約改正の対象とはいたしません。何か良いアイデアがあればお寄せください。

## ・VHF コンテストのシングルバンド部門へのエントリーについて

「私はシングルバンド部門へ参加しているので、他のバンドでの交信はできない」という声を、コンテスト参加中に聞いたことがあります。決してそんなことはありません。シングルバンド部門にエントリーされる際は、他のバンドの交信内容をすべて書類に記載し、サマリーシート上ですべて得点ゼロとして提出してください。他バンドの分についてはチェックログと同様に扱います。

勝負の駆け引き(?) もありますのでマルチバンド部門への参加はちょっと... という方も、お持ちの設備で可能な限りの交信をお楽しみくださり、よりコンテストを盛り上げていただきますようお願いいたします。

## ・管内局/管外局について

両コンテストは、長い間信越管内のみで行われてきました。基本的に「長野県の局1位」「新潟県の局1位」といった表彰のしかたをしてきました。ここには他県への移動といった考え方は無く、どちらかという「各県に住んでいる人の中で順位を決める」という考え方でコンテストが運用されてきたと言えます。

時代の流れを受けて、コンテストの規約として 2000 年度より VHF コンテストに管外局部門が設定されました。それまでは管外局はもちろん「乗り込み」も不可でした。現在も管外局の参加は「ゲスト」的な扱いとなっており、あくまでも信越各県の方の中での上位を決めているという考えです。

なお、管外局の表彰については、上位3局の他に参加エリア別の1位を表彰対象としております。信越管内で運用する管外局(いわゆる乗り込み組の各局)は、それだけで1つのエリアと考え、表彰対象としています。現状のJARL主催コンテストのVHF以上のバンドと同様の考え方に基づいています。ご理解のほどよろしくお願いいたします。

## ・表彰対象局について

今年度より、各部門の参加局数が10局までは1位のみ、20局までは2位、30局までは3位、40局までは4位、それ以上は5位までを表彰対象とすることを基本といたしました。社団局部門、VHFの管外局部門は3位までとしています。また、コンテスト委員会の判断により、さらに表彰対象を増やす場合があります。(減らすことはありません。)

## ・ドナー制度について

参加局数の減少により、地域差によるハンディが大きいとのご指摘があります。どんなコンテストでも地域差は存在し、それを埋めるために移動運用等の工夫をされていると思いますし、規約でその差を埋めるのはたいへん難しいものです。

そこで、JARL 主催コンテストでも採用されている、ある特定の条件に合致した局の中での 1 位の局を、参加各局の中で互いに表彰する「ドナー制度」を、両コンテストでも採用できればと考えております。詳細は追って皆様にお伝えできるよう準備中です。

#### ・JARL 非会員のコンテスト参加について

現在の規約では、非会員の局の参加は制限されておられません。正規に開局されているアマチュア局であれば会員、非会員を問わず参加いただけます。上位入賞時は表彰の対象にもなります。ただし、入賞時の賞品、交信賞、参加証（ビューロー経由）はお渡しできません。ご了承ください。

以上です。この後各県主催のパーティー等も開催されます。規約をご確認いただき、また各局お誘い合わせの上、より多くの皆様にご参加いただきたく、重ねてお願いいたします。

また、コンテスト委員会では、私たちとともにコンテスト運営にご協力していただける委員を募集しています。興味のある方はぜひご連絡ください。

2010 年 6 月 20 日

文責：JROBAQ／西山 浩平（JARL 信越地方本部コンテスト委員長）